

平成 30 年度(2018 年度)

豊中市立青少年自然の家 報告書(概要版)

1.管理運営業務の実施状況	…1
2.本施設の利用状況	…21
3.使用料等(利用料金)の収入の状況	…25
4.管理運営業務に係る 経費の収支状況	…26
参考資料 アンケート集計	…28

NPO 法人 豊中市青少年野外活動協会

1.管理運営業務の実施状況

1. 施設運営について

引き続き、「豊中市の公共施設」にふさわしい、各種法令・条例を踏まえるとともに「ホスピタリティ」や人権意識を大切に施設運営を目指しました。

様々な会議の場（豊中市との連絡会や当協会の理事会、コンプライアンス委員会、わっばる運営懇談会、職員間のミーティング等）を通して、「わっばる」内部に留まらない多角的な運営状況のチェックを行うとともに、利用者モニタリング（アンケートや口頭での指摘等）を活用して、施設運営の課題の共有、改善に繋げていきました。

平成 30 年度は、地震、豪雨、猛暑と気象災害が多発しました。利用者・利用団体の安全を最優先に施設閉鎖の判断も初めて行いました。復旧作業においては、市と連携と取るとともに、市民や市民団体の協力を得ながら行うことによって、利用者・利用団体への影響を小さく抑えることができました。気象災害については、今回の経験を踏まえた対応方法の検討や共有、最新情報の収集を通して「安全・安心な施設の管理運営」に取り組んでいきます。

主に以下の4つの切り口から施設運営に取り組みました。

- (1) 青少年育成団体による自然体験活動、野外活動及び団体生活の場の提供
- (2) 自然体験活動、野外活動及び団体生活に関する指導、助言及び催しの開催
- (3) 自然体験活動、野外活動及び団体生活に関する情報の収集および提供
- (4) 自然体験活動、野外活動及び団体生活の指導者の育成及び支援

前述の気象災害による施設閉鎖、場内設備の損壊、それに伴う利用団体のキャンセルなどがあったものの、利用者向けのアンケート結果は良好であり、概ね計画通りに施設運営が行えたと考えます。

(1) 青少年育成団体による自然体験活動、野外活動及び団体生活の場の提供

引き続き、「ホスピタリティ」を持った利用者受け入れを心がけ、それぞれの団体の目的や構成、野外活動のレベルなどを踏まえた対応を行いました。また、サポーターをはじめ、多くの方や団体の協力を得たり、連携したりしながら、主催事業や施設整備などを実施しました。特に主催事業においては、専門性を持つ団体や個人の協力のもと、多様で奥行きのあるプログラムを参加者に提供できたと考えます。

(2) 自然体験活動、野外活動及び団体生活に関する指導、助言及び催しの開催

施設を初めて利用する団体や、野外活動経験が少ない団体でも効果的に「わっばる」で過ごしていただけるようにモデルプログラム・指導プログラムの開発や既存プログラムの充実に取り組みました。また、主催・共催合わせて 20 の事業を実施し、多くの方に「わっばる」に足を運んで

いただきました。指導プログラムについては職員配置の関係から夜間プログラムの提供を縮小したが、プログラム資料の作成や昼間のプログラムの充実に取り組みました。

(3) 自然体験活動、野外活動及び団体生活に関する情報の収集および提供

ホームページや SNS (Twitter や Facebook) を活用しながら、「わっぱる」や能勢町を初めとする周辺地域の情報を発信しました。また、学校や周辺施設へ訪問したり、施設のリーフレットを送付したりするとともに、「地域子ども教室」「ふれあい緑地フェスティバル」等の外部のイベント・活動に参加して、施設の PR を行いました。

(4) 自然体験活動、野外活動及び団体生活の指導者の育成及び支援

大学生のインターンシップやボーイスカウトの奉仕活動の受入れを行うとともに、研修事業として子どもに関わる指導者を対象とした「キャンプテクニックスクール」を実施しました。

当協会の若者ボランティア(キャンプカウンセラー)に対しても、「わっぱる」の主催事業やプログラム提供、研修へ参加を促し、野外活動指導者としての育成を図りました。

3. 施設管理について

前述の通り、平成 30 年度は多くの気象災害により施設が甚大な被害を受けました。利用者の安全を第一に考えて施設の閉鎖も行いましたが、その後の復旧作業は、多くの市民・団体の協力を得ながら行い、利用への影響を少なく抑える事ができました。

他の施設管理においても、利用者にとって「安全・安心」な施設とするために、引き続き施設管理担当者(管理マネージャー)を配置して、計画的・効果的な施設管理を行いました。気象災害の復旧作業と同様に、多くの市民・団体との連携しながら施設やキャンプ場フィールドの整備を進めるとともに、専門性や危険性の高い作業については専門の業者に委託しました。

施設の老朽化はさらに進んでいくことに加え、「マツ枯れ」「ナラ枯れ」なども引き続き進行しているため、危険箇所、破損個所の早期発見と早期対応ができる体制づくりに今後も取り組んでいきます。

4. スタッフの配置・育成について

第一種衛生管理者の資格を取得した安全衛生担当者が中心となり、職員間ミーティングの場などを活用して職場の安全衛生環境の維持・改善に取り組みました。また、公共施設のスタッフにふさわしい人権意識や知識の習得、施設管理やプログラム指導において必要となる資格や知識・技術の習得に努めました。各種研修に参加するとともに、緊急時を想定した訓練を実施しました。

5. 目標数値について

標準 SLA(サービス水準合意書)で掲げた数値に対しての実績は以下の通りです。概ね全ての項目で、「確保すべきサービスレベル」を上回ることができています。主催事業の実施、施設の PR など、今後も様々な手段で市民や団体が「わっぱる」と接する機会を増やし、新規の利用者・団体の増加に繋げていきます。加えて利用者・利用団体が「わっぱる」や自然、野外活動に親しみ「また来たい」と思ってもらえるような管理運営を行っていきます。また、引き続きネットワークを広げ、多くの団体の協力を得ながらの管理運営にも取り組んでいきます。

サービス分類	項目	実績 (平成 30 年度)	確保すべき サービスレベル	最高評価 サービスレベル
施設の効用	利用団体数(人数)	311 団体 14,009 人	280 団体 (13,000 人)	360 団体 (20,000 人)
	利用率	52.1%/200%	30%/200%	40%/200%
	主催事業実施数 (事業数)	20 事業	17 事業(主催キ ャンプ含む)	20 事業(主催キ ャンプ含む)
青少年健全育成 の推進	施設環境整備実施回数	11 回/年	4 回/年	8 回/年
	主催キャンプの実施	4 回/年	4 回/年	5 回以上/年
	プログラム開発 (出前事業含む)	16 件/年	3 件/年	5 件以上/年
	H P アクセス数	40,197 件	10,000 件	20,000 件
	指導者研修	3 回/ 延べ 49 人 /年	2 回/ 延べ 60 人/年	8 回/延べ 240 人/年
従事者への配慮	職員研修	23 回/年	5 回/年	6 回以上/年
関係機関との連携	協力団体数	17 団体/ 年	10 団体/年	25 団体以上/ 年
利用者満足度	アンケート回収率	60.5%	60%/利用団 体数	80%以上/ 利用団体数
	アンケート総合満足度	96.8%	75%以上	90%以上
	利用団体リピート率	58.5%	40%以上/利 用団体数	70%以上/利 用団体数
	苦情件数	0 件/年	6 件以下/年	2 件以下/年
安全・安心	防災訓練の実施回数	2 回/年	2 回/年	4 回以上/年
	施設内の巡視点検	2 回/日	2 回/日	3 回以上/日
収支	指定管理業務に係る 収支	黒字である	黒字であるこ と	—

1. 施設運営に関する基本事項について

「豊中市の公共施設」に相応しい施設の管理運営を行うため、以下の項目を実施しました。

(1) 様々な主体による多角的な管理運営状況のチェック、モニタリング

① 理事会・企画運営委員会の開催

団体内での定期的な会議(理事会・運営委員会)を活用して施設の状況の報告・共有を行った上で、その後の管理運営へ反映させました。

a: 理事会

当協会の理事によって構成され、主に施設の管理運営方針の検討・決定を行いました。
平成 30 年度は以下の日程で理事会を実施しました。

第 1 回	平成 30 年 4 月 16 日	19:00～21:00
第 2 回	平成 30 年 5 月 22 日	19:00～21:00
第 3 回	平成 30 年 10 月 10 日	19:00～21:00
第 4 回	平成 31 年 2 月 12 日	19:00～21:00

b: 企画運営委員会

当協会の理事、職員、ボランティア有志によって構成される。主催事業の実施方針の決定や準備、研修のほか、施設運営上のルールの検討、施設整備内容の検討を行いました。平成 30 年度は以下の日程で運営委員会を実施しました。

第 1 回	平成 30 年 4 月 23 日	19:30～21:00
第 2 回	平成 30 年 6 月 7 日	19:30～21:00
第 3 回	平成 30 年 7 月 10 日	19:30～21:00
第 4 回	平成 30 年 9 月 19 日	19:30～21:00
第 5 回	平成 30 年 10 月 24 日	19:30～21:00
第 6 回	平成 30 年 11 月 21 日	19:30～21:00
第 7 回	平成 30 年 12 月 11 日	19:30～21:00
第 8 回	平成 31 年 1 月 25 日	19:30～21:00
第 9 回	平成 31 年 2 月 28 日	19:30～21:00
第 10 回	平成 31 年 3 月 20 日	19:30～21:00

② 「わっぱる 運営懇談会」の実施

平成 30 年度も引き続き「わっぱる 運営懇談会」を実施しました。青少年活動、教育、地元、

利用団体、福祉といった様々な立場の方から、それぞれの立場に基づいたわっぱるの運営に関する提言をいただきました。

i : 実施時期 2019 年 3 月 5 日 (火)

ii : 参加者

※懇談会委員 5 名

分野	所属	氏名
青少年	ボーイスカウト豊中地区参与	黒田 一男(座長)
教育	豊中市立東泉丘小学校校長	佐々中 雄司
利用者	豊中天文協会副会長	中川 均
地元	大阪府立能勢高等学校校長	向井 幸一
福祉	豊中市社会福祉協議会 事業経営室長	森 正巳

※NPO 野協理事及び職員 6 名

③ 利用者アンケートの実施

利用団体にアンケートを実施しました。定期的にアンケートの集計を行い、ミーティングで結果を共有、運営の改善へ繋げました。(平成 30 年度は 9 月、3 月の 2 回実施)

④ 豊中市担当者との連携

豊中市教育委員会事務局 生涯学習課の担当者とは、毎月の施設の利用状況、管理状況の共有を行い、管理運営上の課題については連携を取りながら解決に取り組みました。(連絡会を平成 30 年度は 3 回実施)

(2)コンプライアンス委員会の設置

前述の理事会の開催に合わせて、コンプライアンス委員会を 2 回開催しました。

(4 月 16 日及び 10 月 10 日)

夏の繁忙期前後での課題や実施事項の報告、振り返りを行いました。

(3)「人権」に関する研修への参加

各機関が実施している研修に参加するとともに、「とよなか男女共同参画推進センター すてっぷ」より映像教材を借りての職員内研修を実施。人権意識の涵養を図りました。

※研修の詳細については P18「5. 職員の配置・育成」を参照

(4)「施設管理担当者」および「安全・危機管理担当者」の設置

引き続き、管理マネージャーを施設管理担当者として計画的な施設管理に取り組みました。また、管理マネージャー及び副所長を「安全・危機管理担当」として、主に以下の取り組みを行いました。

①施設管理

施設管理のサイクルを引き続き定着させること、多くの市民・団体と連携することを念頭に置きながら施設整備を行いました。また、専門性や危険性の高い作業については専門の業者に委託しました。

※施設管理の詳細に関しては、P14「4. 施設管理・施設整備」参照

②安全・危機管理

前述の、「安全・危機管理担当」が主導し、施設利用者・利用団体の安全対策に取り組みました。

※安全・危機管理の詳細に関しては、P13「3. 安全対策」参照

(5)個人情報保護、情報公開への取り組み

「個人情報保護士」の資格を有する副所長が情報保護、情報公開事例や事故事例を収集し職員向けに啓発を行いました。

2. 施設運営

「サポート&ホスピタリティ with スマイル」を基本コンセプトとしながら、施設運営を行いました。

引き続き、以下の4つの切り口から施設運営に取り組みました。

- (1) 青少年育成団体による自然体験活動、野外活動及び団体生活の場の提供
- (2) 自然体験活動、野外活動及び団体生活に関する指導、助言及び催しの開催
- (3) 自然体験活動、野外活動及び団体生活に関する情報の収集および提供
- (4) 自然体験活動、野外活動及び団体生活の指導者の育成及び支援

(1) 青少年育成団体による自然体験活動、野外活動及び団体生活の場の提供

「里山の自然」と「多様な人々の支援」が融合した「豊かな活動」の場を実現するために、豊中市内や、地元能勢町内をはじめとして、多くの人々・団体とのネットワークを広げ、管理運営に協力していただきました。

① 主催事業

オープンフェスタ、ワークキャンプといった主催行事において、以下の団体や個人に協力していただきました。平成 30 年度も豊中天文協会と共催で「豊中星空まつり in 能勢」を実施しました。また、若者支援の専門団体「一般社団法人 キャリアブリッジ」と協力して引きこもりの若者をサポートする「ユースチャレンジキャンプ」を実施しました。その他、青少年指導者を対象にした研修事業「キャンプテクニックスクール」において、人間関係トレーニングやプログラム企画の

専門家を講師として招聘しました。

※連携をとった主催事業

各主催事業の内容や日程、参加者数は P22「2018 年度 主催事業一覧(主催・共催)」を参照。

事業	協力団体等	実施内容
里山の春オープンフェスタ	似顔絵作家(2名)	似顔絵コーナー
	自然遊び団体(雲遊の会)	野外工作、野遊び
	料理研究家	野外のおやつ作り
	ガールスカウト豊中地区	野点
	クラフト工房主催者	自然工作
	豊中天文協会	太陽観察
里山の秋オープンフェスタ	似顔絵作家(2名)	似顔絵コーナー
	豊中天文協会	太陽観察
	自然遊び団体(雲遊の会)	野外工作、野遊び
	料理研究家	野外のおやつ作り
	ガールスカウト豊中地区	木の工作コーナー
ワークキャンプ(6月・9月)	ボーイスカウト ガールスカウト 豊中市職員	施設整備
星空まつり	豊中天文協会 (※共催事業)	星空観察・太陽観察など
キャンプテクニックスクール	共育座 REDSTONE	講師
ユースチャレンジキャンプ	一般社団法人 キャリアブリッジ	訓練生の生活指導

② プログラム提供への協力依頼、協力体制の構築

引き続き、豊中天文協会の協力による天体観測を実施しました。

a: 天体観測 (9件) ※参考:平成 29 年度 9 件

昨年まで実施していた丹波立杭焼の絵付けプログラムは、実施数が少ないため一般提供は中止しました。引き続き、主催事業や学校利用などで希望があれば続けていきます。

また、天体観測については「わっぱる」スタッフが講習を受け、独自に天体望遠鏡を扱えるようになった。

③ わっぱるサポーターへの登録促進、組織化

施設を「利用する」立場から、施設運営や整備に協力していただく立場へ変わってもらうことを目的として「わっぱるサポーター制度」を継続しました。わっぱるの施設運営や行事に協力していただける方・団体を「わっぱるサポーター」としてリスト化しています。

a:登録団体、個人数:45（平成29年度は40）

b:主な活動

- i:ワークキャンプや臨時施設整備での施設の整備への協力。
- ii:各種主催事業で、運営やプログラム提供などに協力。
- iii:一般の利用者や学校に対するプログラム提供に協力。
- iv:竹や薪など、プログラムに必要な資材を有償や無償で提供。

④ その他、周辺地域・他団体と連携した取り組み

周辺の学校や施設、周辺団体を訪問し、「豊中市立青少年自然の家 わっぱる」の存在をアピールするとともに、プログラム提供、施設活用などにおいて相互の連携を図りました。

※訪問先

能勢小学校、能勢中学校、能勢高等学校、浄るりシアター、けやき資料館、子育て支援センター、生涯学習センター、観光物産センター など

主に利用団体として、「わっぱる」を利用していただいたり、施設のリーフレットの設置や、主催事業のチラシ、ポスターの配架をしていただいたりしました。

能勢小学校については「防災」に関する授業の一環として、9月の集中豪雨で被害を受けた場内の見学及び復旧作業を4年生児童と一緒に行いました。

⑤ 「とよなかの里山 わっぱる」の環境整備

「里山の自然」の環境整備活動について、主催事業（「ワークキャンプ」「わっぱるの森をつくろう」等）の機会を活かして、市民・市民団体と連携して行いました。

また、平成30年度は豪雨・台風により施設が大きな被害を受けました。復旧作業について、広く市民・市民団体に呼び掛けて協力していただきました。

（詳細はP14「4. 施設管理・施設整備」を参照）

（2）自然体験活動、野外活動及び団体生活に関する指導、助言及び催しの開催

① モデルプログラム、指導プログラムのアピール

キャンプ経験が浅い層に対して、引き続きモデルプログラムの紹介を行いました。また、技術や知識がなくても気軽に施設に足を運んでもらえるようにクッキング・クラフト・ネイチャーツアーなどの指導付きプログラムを提供しました。

※ 指導プログラムの実績

No	プログラム	平成 30 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 28 年度 実績	備考
1	クラフト	32 件	47 件	45 件	
2	職員指導プログラム	12 件	16 件	18 件	ネイチャーツアー、夜のたんけん、火起こしなど
3	野外炊事補助 アウトドアクッキング	5 件	16 件	13 件	通常の野外炊事補助に加えて、バウムクーヘン、アイスクリームづくりなど
4	キャンプファイヤー補助	9 件	15 件	33 件	薪組、司会、火守り
5	外部講師プログラム	9 件	14 件	9 件	天体観測

通常利用の対応を手厚くするため、平成 30 年度より学校利用を除いて夜のプログラム（夜のもりたんけん、キャンプファイヤーの火守・司会など）の提供を中止しました。

全てのプログラムにおいて前年度より提供数が減少しました。台風・豪雨による利用者・利用団体の減少も大きな要因のひとつですが、今後も指導プログラムを積極的にアピールしていくとともに、職員の指導がなくても活用することができるプログラムの資料を充実させていきます。

また、研修や情報収集を通して新しいプログラムの開発にも取り組んでいきます。

② 新規プログラムの開発

以下の 7 つのプログラムを新たに開発しました。

i : クラフトメニューに「ゆらゆらネイチャーライト」を追加。

ii : クラフトメニューに「ウッドマグネット」を追加。

iii : 自然観察プログラムに「スマホ用マクロレンズ」を追加

③ 主催事業の実施

「わっぱる」の知名度向上や利用促進を図り、自然体験活動や野外活動、団体生活の入り口とするため、主催事業を実施しました。

「わっぱる」のファンクラブ「わっぱるキッズ」対象の事業をこれまで年に 2 回実施していましたが、登録者が 600 名を超え、事業に参加できない登録者が増加していました。そのため、平成 30 年度は、日帰り宿泊合わせて 7 回の「わっぱるキッズ」事業を行い、年間を通して登録者が「わっぱる」に親しめるようにしました。

※各主催事業の内容や日程、参加者数は P22 「2018 年度 主催事業一覧(主催・共催)」を参照。

④ 「たき火 DAY」の実施

冬季の野外活動の楽しみ方の提案、地元能勢町における知名度の向上、閑散期の利用者増を目的として「たき火 DAY」を実施しました。利用者が自由に「たき火」をできる場所を提供。自由にたき火を体験していただきました。

1 回目：2018 年 2 月 3 日（日）3 グループ 11 名参加

2 回目：2018 年 3 月 9 日（土）6 グループ 22 名参加

※「たき火 DAY」は昨年に引き続きの実施。（昨年も 2 回実施）

2 回の参加者は、2017 年度（3 グループ 10 名）→ 2018 年度（9 グループ 33 名）に増加しました。

（3）自然体験活動、野外活動及び団体生活に関する情報の収集および提供

① ホームページの運営

ホームページを情報発信の柱として位置づけ、主に以下の情報を発信しました。

・「わっぱる」のできごと ・主催事業の告知 ・主催事業の報告 ・「能勢」の風物

※2018 年度は 45 回の更新を行いました。

また、平成 30 年度より「わっぱる生きもの図鑑」を開設。「わっぱる」で見つけた生きものについての情報を発信しています。

※2018 年度は 25 種類の生きもの情報を発信しました。

② ツイッターの活用

ブログと関連付けて、ツイッターでの情報発信を行いました。（現在フォロワーが 86 名）。

※参考：平成 29 年度はフォロワーが 76 名

③ フェイスブックの運用開始

公式フェイスブックの運用を開始しました。現在は主にブログ記事のシェアを行っています。

（現在 67 名のフォロー、60 名の『いいね』をいただいています）

④ 施設紹介資料の配布

平成 30 年年度も知名度向上と利用促進を目的として施設紹介リーフレットの配布を行いました。

a：公共施設向けの資料配布

i：豊中市内公共施設

市内の公民館、図書館、体育館 eMIRAIE 環境交流センター

豊中市市民活動情報サロン など

ii：能勢町内施設

生涯学習センター、子育て支援センター、浄るりシアター、観光物産センター、けやき資料館、能勢町 B&G 海洋センター、国体記念スポーツセンターライフル射撃場 など

iii: 豊中の施設

豊中市児童養護施設 翼

iv: 近隣施設

猪名川町スポーツセンター、豊能町立スポーツセンター

b: 学校向けの資料送付

学校向けに施設やプログラムの説明資料を改訂・作成しました。平成 30 年度は新たに、施設への交通手段に関する資料を追加。

豊中市内の小中学校の校長会において配布していただきました。

c: 近隣の青少年団体への送付

大阪、京都、兵庫のボーイスカウト及びガールスカウト宛に、施設紹介リーフレットの送付を行いました。

⑤ 出前広報活動

職員が「わっぱる」の外に出て、学校や市民向けにプログラムを提供する「出前事業」を、平成 30 年度は 13 件行いました。

No	月日	事業	内容	人数(概数)
1	5 月 3 日(水)	ふれあい緑地フェスティバル	豊中市主催。 豊中市青少年野外活動協会として出展したものに、わっぱる職員も参加。鯉のぼりのクラフトを行いながら、施設の宣伝や主催事業も告知。	300 名
2	9 月 1 日(土)	地域こども教室(刀根山小)	防災教育の一環として、火おこしプログラムを提供。	60 名
3	10 月 20 日(土)	防災フェスタ	とよなか国際交流協会主催。火起こしと空き缶と牛乳パックでご飯を炊くコーナーを出展。	20 名
4	10 月 28 日(日)	地域こども教室カーニバル	松ぼっくりなどを使ったクラフトコーナーを出展。	200 名
5	11 月 16 日(金)	コラボまつり	松ぼっくりのクリスマスツリーと、バードコールのクラフトコーナーを出展。	100 名
6	2 月 17 日(日)	キッズランドしょうない	庄内公民館主催。 木の写真たてコーナーを出展。	100 名
7	3 月 6 日(水)	豊南小学校講師派遣	「わっぱる」と「わっぱる」の自然を紹介。木を使ったゲームとクラフトを実	60 名

			施。	
8 ~ 13	5 月・6 月・10 月・11 月・1 月・ 2 月	子どもチャレンジ	豊中人権まちづくりセンター児童館 主催。豊中市青少年野外活動協会 が受託したものにわっばる職員も参 加。年間を通して、登録者を対象に 様々なプログラムを実施。	105 名

※ 地域子ども教室については、生涯学習課が行う指導者向け説明会や研修会において施設とプログラムの PR をしました。(6 月及び 3 月)

(4) 自然体験活動、野外活動及び団体生活の指導者の育成及び支援

① インターンシップ生の受け入れ

夏季(8 月)に追手門学院大学(茨木市)の学生 2 名のインターンシップを受け入れました。

② キャンプテクニックスchoolの実施

11 月～12 月に主催事業としてキャンプテクニックスchoolを実施しました。当協会のボランティアだけではなく、広く「子どもに関わる人」を対象に、コミュニケーションや子どもとのかかわり方について学んだり、考えたりする場を作りました。

	場所	参加人数
1 回目	豊中市中央公民館	14 人
2 回目	豊中市中央公民館	20 人
3 回目	豊中市立青少年自然の家	15 人

③ キャンプカウンセラーの育成

主催事業やプログラム提供など、「わっばる」運営への参画や研修を通して、当協会に所属しているボランティア(キャンプカウンセラー)の育成を図りました。研修や、主催事業の企画・運営といった実践の中で指導者としてのレベルアップを図りました。団体内での研修に加えて、外部からの講師を招いての研修も実施。キャンプカウンセラーの技術や知識に加えて、モチベーションの向上を図りました

ボランティア向け研修は年間で 15 回実施。野外活動技術、組織キャンプの理解、子どもの理解、環境教育、救急法、スキー技術などを実施しました。

(5) その他の「施設運営」に関する取り組み

① 食事提供体制の充実

引き続き食堂業者と月に 1 回程度の定期ミーティングを持ち、利用者からの要望の共有を行うとともに、食事の内容や提供方法、食堂の環境等の改善を進めました。

※平成 30 年度の実施内容

- ・季節に応じて、旬の食材を使った給食メニューの考案、提供。(季節ごと・4 回)
- ・団体の年齢層に応じた、食事量の調整。
- ・アレルギー対応に関する情報共有。
- ・夏季の冷茶無料提供。

② 心地よい空間づくり

利用者にとって居心地が良く、「わっぱるの自然」に興味を持ってもらえるように、主に事務所前の団らんスペースにおいて以下を実施しました。

- ア: わっぱる敷地内にある樹木や苔、鉱石などの展示。生物の展示。
- イ: 書籍の充実。(アウトドア雑誌や自然環境に関する団体の機関誌、能勢町の資料など)
- ウ: 施設で体験できるクラフト見本の展示。
- エ: 他団体、他施設の紹介チラシ、イベントに関するチラシのコーナー。
- オ: クリスマスツリーや門松など、季節に応じた飾りつけ。
- カ: わっぱる内で発見した生きものの情報の展示。

3. 安全対策

前述の通り「安全・危機管理担当」を定め、利用者・利用団体の安全対策に取り組みました。

(1) 危機管理マニュアルの整備

既に存在する「危機管理マニュアル」の内容に関して、各項目において検討を行い、追加や改訂を行いました。昨年度に作成した火災時の対応フロー図については、避難訓練を通してより使いやすいものに改訂しました。

(2) 「食の安全」への対応

昨年度の賞味期限切れ食材の提供という事故を受けて、今年度も引き続き、消費期限や賞味期限のチェック体制、食材の仕入れ体制について、食堂を委託している業者との間で確認を行いました。また、アレルギーやハラル食に関しても、食物アレルギー調査票を運用し、食堂業者と密に連絡を取りながら対応を行いました。

(3) 応急救護力の向上

主に豊中市消防局が実施している講習や、当協会主催の研修に参加することを通して、応急救護力の向上につとめました。※研修の詳細については P18 「5. 職員の配置・育成」を参照

(4) 緊急時を想定した訓練の実施

年度内に 2 回の避難訓練・避難誘導訓練・消火訓練を実施しました。

(5) 気象災害への対応

平成 30 年度の気象災害を受けて、災害時の対応について変更を行いました。

- ・豪雨、暴風などの気象状況によって、施設判断で閉鎖を行うこと。
 - ・熱中症指数(WBGT)を基準に、利用団体へ注意を呼びかけること。
- を、今後行っていきます。

4. 施設管理・施設整備

今年度も、引き続き「安全・安心」を念頭に置きながら施設管理を行いました。施設の破損や必要な整備項目については、発見後にミーティング等を通して随時職員間で共有をはかり、補修・修繕の方針を決定するという「施設管理サイクル」の定着を意識しました。また、「ワークキャンプ」「わっぱるの森をつくろう」といった主催事業を通して、多くの市民・団体に施設整備に関わってもらい、親しみを感じてもらえるように働きかけました。また、今年度は台風や豪雨により、施設がこれまでにないほどの被害を受けました。復旧作業については、多くの市民・市民団体に呼び掛けて実施し、大きな成果を上げることができました。

※実施項目

- (1) 専門的内容の業者への委託
- (2) 計画的な施設管理サイクルの定着
- (3) 市民・市民団体・ボランティアと協働した施設整備
- (4) 「とよなかの里山 わっぱる」の魅力を高める整備活動
- (5) 台風・豪雨による被害の復旧作業

(1) 専門的内容の業者への委託

利用者の安全と施設の保守のため、以下の業務について専門業者に委託を行い適切な施設管理に努めました。

No	業務
1	施設警備
2	食堂運営・清掃業務
3	自家用電気工作物保守点検
4	消防設備機器保守点検
5	浄化槽設備維持管理
6	給湯用ボイラー保守点検
7	暖房用ボイラー保守点検
8	水質管理機器保守点検
9	ろ過装置保守点検
10	水質検査
11	ごみ処理
12	天体望遠鏡保守

(2) 計画的な施設管理サイクルの定着

引き続き、施設管理を重点的に担当する職員(管理マネージャー)の計画・指導のもと、修繕・補修が必要な個所の発見→方針の決定→計画→修繕・補修というサイクルを日常業務の中に組み入れながら施設管理を行いました。

主に以下の整備を、職員によって、もしくは豊中市と連携を取りながら行いました。

① 職員が行った主な整備項目

- ・ 場内の水路補修(通年)
- ・ 場内の枯れ木の伐採、倒木の整備(通年)
- ・ 場内の常緑樹の間伐(冬季)
- ・ 場内の手すり補修(通年)
- ・ つつじの里にウッドデッキを新設(4月～5月)
- ・ 薪置き場の作成(5月・3月)
- ・ プールのペンキ塗り・目地埋め(6月)
- ・ ハイキング道はじめキャンプ場内の階段修理(6月)
- ・ 電線にかかる場内低木の伐採(6月)
- ・ 食堂洗い場の改修(1月)
- ・ 浴室タイルの補修(2月)

② 業者が行った整備項目

- ・ 場内水道管、排水管、ポンプ、トイレ等の破損補修(通年)
- ・ 館内の蒸気管の蒸気漏れ補修(冬季)
- ・ 浄化槽ポンプ交換(6月)
- ・ 膜ろ過装置の増設(6月)
- ・ 北の沢に砂防ダム設置工事(大阪府の砂防工事として実施・1月～)

(3) 市民・市民団体・ボランティアと協働した施設整備

「ワークキャンプ」「わっぱるの森をつくろう」などの主催事業を通じて市民・市民団体・ボランティアを巻き込んだ施設整備・森林整備を実施。また、利用団体と協力しての整備を実施しました。

- ・ ワークキャンプ(年2回実施 夏前・夏後)
- ・ わっぱる森をつくろう (10月～3月 4回実施)
- ・ ボーイスカウト豊中12団
(8月と3月に団体の協力のもと、正門付近の整備と水辺の整備を行った)
- ・ 豊能登山キャンプクラブ
(6月と11月に正門付近及び第4炊事場周辺の草刈りを実施)

(4)「とよなかの里山 わっぱる」の魅力を高める整備活動

「とよなかの里山 わっぱる」の魅力を高めるために、以下の活動を行いました。

① 水辺の整備

主催事業「ワークキャンプ」の機会等を利用してゴミ拾いを行うとともに、周辺部の刈払いや間伐を行いました。7月の豪雨の影響で流木やゴミが大量に漂着し、水辺はいったん閉鎖したが、再開に向けて3月以降に集中的に整備を実施しました。職員が実施したり、前述のとおり利用団体(ボーイスカウト豊中12団)の協力を得たり、市民・市民団体に呼び掛けたりして実施しました。

② 間伐の実施

キャンプ場敷地をゾーニングして、手を入れるエリアについて常緑樹を中心に間伐を行いました。

(5) 台風・豪雨による被害の復旧作業

7月～9月の豪雨・台風により、施設が大きな被害を受けました。職員をはじめ、当協会の関係者(若者ボランティアやOBなど)、多くの市民・市民団体や地元の小学校などに協力していただき、復旧作業を行いました。

※作業内容・協力者数

ボーイスカウト、ガールスカウト、利用団体、当協会の OB・会員・ボランティアなどに協力していただきました。

月日	作業内容	協力者数
9 月 9 日(日)	・正門近く土砂の除去	1 名
9 月 11 日(火)	・宿泊棟裏の土砂除去 ・南門近くの土砂除去	2 名
9 月 12 日(水)	・宿泊棟裏の土砂除去 ・場内通路の岩・木の撤去	8 名
9 月 13 日(木)	・宿泊棟裏の土砂除去	2 名
9 月 15 日(土)	・宿泊棟裏の土砂除去	2 名
9 月 16 日(日)	・宿泊棟裏の土砂除去 ・南門近くの土砂除去	9 名
9 月 17 日(祝)	・グラウンドの土砂を土嚢に詰める→水流で削られた道路へ ・南門近くの土砂除去	9 名
9 月 22 日(土)	・グラウンドの土砂を土嚢に詰める→水流で削られた道路へ	43 名
9 月 23 日(日)	・グラウンドの土砂を土嚢に詰める→水流で削られた道路へ ・宿泊棟床下の土砂を整理。	17 名
9 月 24 日(祝)	・畑の土砂の除去	8 名
9 月 26 日(水)	・ビオトープ付近の土砂除去	2 名
10 月 2 日(火)	・グラウンドの土砂をならす。土のう袋を水流で削られた道路へ	約 60 名
3 月 15 日(金)	・川原の掃除、流木の撤去	2 名
3 月 19 日(火)	・川原の掃除、流木の撤去	6 名
4 月 6 日(土)	・川原の掃除、流木の撤去	25 名
4 月 7 日(日)	・川原の掃除、流木の撤去	2 名
4 月 13 日(土)	・川原の掃除、流木の撤去	22 名
4 月 14 日(日)	・川原の掃除、流木の撤去	10 名

5. 職員の配置・育成

(1) 職員の配置

以下のように、職員を配置しました。

区分	人数	主な職務内容	摘要
所長	1 名	指定管理業務全体の統括	
副所長 兼 主任指導員	1 名	指定管理業務の企画立案と運営、利用者対応、労務管理、豊中市との連絡調整業務、安全衛生管理、職員の研修計画策定	
管理マネージャー	1 名	施設管理、外注契約指導・履行確認、各種メンテナンス契約事務、物品調達、利用者対応、施設管理、備品管理	
事業担当	1 名	主催事業の企画立案と運営、利用者対応	
指導員	2 名	利用者対応、施設管理、主催事業の企画立案と運営	
計(常勤職員)	6 名		
法人理事 事務局職員	12 名	主催事業時及び職員に事故があった場合は運営管理業務及び利用指導にあたる。	
非常勤	1～2 名	職員の補助業務	繁忙期

(2) 職場における安全衛生管理

第一種衛生管理者の資格を持つ安全衛生担当者(副所長)を設置。担当者を中心として、週に1 回程度実施する職員ミーティングを活用しながら、労働環境について話し合った上で、良好な職場環境の維持・改善に取り組みました。

(3) 公共施設の職員にふさわしい意識、スキル

主に「①人権意識」「②情報保護に関する知識・意識及びビジネスマナー」「③応急救護力」「④施設管理やプログラム指導において望ましい資格やスキル、知識の習得」の4 つを念頭に置きながら職員の育成を図りました。以下の研修に参加したり、職員の派遣を行ったりしました。

① 人権意識

a: 豊中市立青年の家いぶき人権研修

(10 月 26 日・豊中市立青年の家いぶき主催・1 名参加)

b: 平成 30 年度 第 2 回大阪府キャンプ協会 キャンプサロン

～スペシャルニーズの観点から見たキャンプ場管理運営の現状とこれから～

(10 月 28 日・大阪府キャンプ協会主催・1 名参加 ※パネリストとしても参加)

c: 都市公園と障がい者福祉シンポジウム

～都市公園の新たな可能性×障害者が活躍できる場の拡大～

- (11月12日・生駒市・株式会社モンベル・社会福祉法人青葉仁会 主催 1名参加)
- d: 第35回全国青少年相談研究集会～青少年の複合化した課題を地域で支えるには～
(1月17～18日・国立青少年教育振興機構主催・1名参加)

② 情報保護に関する知識・意識及びビジネスマナー

※情報保護に関する知識・意識及びビジネスマナーについては、業務の中で随時トレーニングを行いました。

③ 応急救護力

- a: 山岳女医 大城和恵口座 ～事例から学ぶ山の医学～ 夏山編
(6月6日・モンベル大阪本社主催・1名参加)
- b: 応急手当普及員再講習
(2月17日・豊中市消防局主催・1名参加)

④ 施設管理やプログラム指導において望ましい資格やスキル、知識

- a: 平成30年度 近畿地区青少年教育施設協議会 所長研修
(4月30日～5月1日・近畿地区青少年施設協議会主催・1名参加)
- b: 自然体験活動指導者スキルアップ研修会 ～動機づけの集団指導法から
(6月14日・一般社団法人日本アウトドアネットワーク主催・1名サンアK)
- c: CONE 専門研修会「自然体験活動における旅行業法」
(10月29日・NPO 法人自然体験活動推進協議会主催・1名参加)
- d: 神戸三田アウトドアビレッジ TEMIL オープニングセミナー ～自然体験と地域の未来～
(10月29～30日・神戸三田アウトドアビレッジ TEMIL 主催・1名参加)
- e: 野外活動指導者のための リスクマネジメントセミナー
(12月2日・大阪府キャンプ協会主催・1名参加)
- f: 第8回全国青少年教育施設所長会議・施設研究集会
(12月6～7日・国立青少年教育振興機構・1名参加)
- g: 自然体験活動フォーラム in 淡路 2018 ～人と社会を笑顔でつなぐ～
(12月7日・NPO 法人自然体験活動推進協議会主催・1名参加)
- h: 平成30年度 近畿地区青少年教育施設協議会専門委員会 教育的ホスピタリティ
(12月12～13日・近畿地区青少年施設協議会主催・1名参加)
- i: 平成30年度 近畿地区青少年教育施設協議会 専門研修会
(12月13～14日・近畿地区青少年教育施設協議会主催・1名参加)
- j: ツリークライマー資格認定講習
(12月15～17日・大阪府立少年自然の家主催・1名参加)
- k: 近畿地区青少年教育施設ユースプロジェクト第3回研修会

(1月31日～2月1日・近畿地区青少年施設協議会主催・1名参加)

l: 関西野外活動ミーティング 2019 キャンプがつなげる・キャンプでつながる

(2月24日・大阪府キャンプ協会主催・1名参加)

m: 団体内講習

i: キャンプテクニックスクール(11月2日、16日、23日・2名参加)

内容: 子どもと接する指導者としての心構え、働きかけ方、グループワークなど。

ii: スキー研修(12月22日～24日・2名参加)

内容: スキー技術、教え方について

⑤ その他

a: 他団体実施事業への派遣

12月1日～2日 ※小学生対象

派遣先: Pulsate(1名派遣)

内容: 1泊2日の中での物づくりや課題解決を通して、人との関わりを学んだり、自分の考えを実現する体験をしたりするもの。

(4) 職員企画提案事業の実施

週に1回程度実施する職員ミーティングを通じて、職員から施設整備項目や、利用者への提供プログラム、などを検討し実現しました。(場内の修繕項目や、クラフトプログラム、自然体験プログラムなど)

2.本施設の利用状況

平成 30 年度(2018 年度) 利用者内訳(対象者・市内市外別)

利用状況集計表

利用者種別	宿泊棟・管理棟			テント			日帰り		
	団体数	実人数	延人数	団体数	実人数	延人数	団体数	実人数	延人数
1.市内目的	63	2368	5260	22	683	1687	45	1852	1852
2.市内一般	0	0	0	2	21	42	4	22	27
3.市内家族	9	44	92	9	45	90	22	96	96
4.市内行政	1	5	10	0	0	0	3	57	57
5.市外	63	1777	3806	22	176	349	46	641	641
合計	136	4194	9168	55	925	2168	120	2668	2673

利用者種別	合計		
	団体数	実人数	延人数
1.市内目的	130	4903	8799
2.市内一般	6	43	69
3.市内家族	40	185	278
4.市内行政	4	62	67
5.市外	131	2594	4796
合計	311	7787	14009

2018 年度 事業一覧(主催・共催)

※主催事業

参加
人数

NO	事業名	目的	内容	対象	日程	実人数	延人数
1	オープンフェスタ 春	わっぱるを開放し、自然とのふれ合いの場・野外で遊ぶ	ウォークラリー、クラフト、火おこし体験、おやつ作り、似顔絵コーナー、ピザづくり、太陽観察など	家族・グループ	5月19日・20日 (日帰り) 宿泊も可	387	441
2	オープンフェスタ 秋	場を提供することで、里山の季節・自然を満喫してもらう。	ウォークラリー、クラフト、火おこし体験、おはしづくり、似顔絵コーナー、おやつ作り、太陽観察、焚き火コーナーなど	家族・グループ	10月20日・21日 (日帰り) 宿泊も可	318	369
3	ワークキャンプ 6月	夏の繁忙期前に、わっぱるの施設整備を利用団体の方々で行う。	テント設営、防腐剤塗り、溝掃除、川掃除、枯れ木の伐倒、プール塗装、ハイキング道整備など	一般	6月20日～24日 (5日間)	60	116
4	ワークキャンプ 9月	夏の繁忙期後に、わっぱるの施設整備を利用団体の方々で行う。	テント撤収、プール掃除、枯れ木の伐倒など	一般	9月1日～2日 (1泊2日)	39	65
5	ジュニアキャンプ	高学年(5,6年)を対象に、高学年ならではの野外活動を体験する。	トワイライトハイク、テント泊、全自炊、キャンプファイヤー、川遊びなど	小学生 (5,6年)	8月4日～6日 (2泊3日)	28	84
6	キャンピングスクール	中学年(3,4年)を対象に、キャンプの入門として基本的な野外活動プログラムを体験する。	テント泊、野外炊事、クラフト、キャンプファイヤー	小学生 (3,4年)	8月17日～19日 (2泊3日)	41	123
7	キャンプテクニックスクール	日常的に子どもと関わる立場の人々に、コミュニケーションのありかた、グループでの振る舞いや声のかけ方など	コミュニケーションプログラム体験、意見交換など	一般	11月2日 11月16日 11月23日 (日帰り)	49	49

		どを学ぶと同時に指導者間の交流の機会とする。					
8	ユースチャレンジキャンプ	わっぱるでの整備作業を通して、他人と協力することの大切さを知り、仕事を通しての達成感を得る。また、食事作りなど、基本的な生活習慣を身に着ける。	場内の整備、整備計画策定、食事作りなどとの地域若者サポートセンターとの協力事業	困難を有する若者	9月26日～30日 (4泊5日)	11	55
9	わっぱるキッズカレー作り	「カレー作り」のプログラムを通して、野外活動の楽しさを感じて親しんでもらう。	カレー作り、簡単なクラフトなど	小学生 (1～6年)	5月26日・27日 (日帰り)	38	38
10	わっぱるキッズ川の生きもの観察	施設を流れる「大路次川」での採集・観察を通して、生きものへの関心を高める。	川での生物採集、観察など	小学生 (1～6年)	6月16日・17日 (日帰り)	36	36
11	わっぱるキッズサマーキャンプ	1泊2日のキャンプを通して「わっぱる」と自然、友達に親しむ。	野外料理、工作、テント泊、野宿、キャンプファイヤーなど	小学生 (1～6年)	8月25日～26日 (1泊2日)	43	86
12	わっぱるキッズたき火	「火」に親しむとともに、その扱い方を知る。	たき火、炭づくりなど	小学生 (1～6年)	11月3日・4日 (日帰り)	33	33
13	わっぱるキッズクリスマス	「わっぱる」ならではのクリスマスを楽しみ、自然と友だちと親しむ心を持つ。	ウォークラリー、キャンドルファイヤー、クラフト、ケーキ作りなど	小学生 (1～6年)	12月8日～9日 (1泊2日)	40	80
14	わっぱるキッズ餅つき	「わっぱる」ならではの正月を楽しみ、わっぱるの自然や友だちに親しんでもらう。	お餅つき、お正月遊び など	小学生 (1～6年)	1月19日・20日 (日帰り)	34	34
15	わっぱるキッズみそ作り	「味噌」を使ったり、作ったりすることを通して、わっぱるの自然や友だちに親しんでもらう。	味噌づくり、野外炊事 など	小学生 (1～6年)	2月16日・17日 (日帰り)	34	34

16	わっぱるの森をつくろう①	伐採や薪作りの体験により、森のしくみを学び森を大切に作る心を育てる。森を活用したプログラムを開発し、利用団体などにプログラムを提供できるようにする。	森の観察・苗木づくり	家族・グループ・一般	10月27日 (日帰り)	31	31
17	わっぱるの森をつくろう②		マキ割り・焚き火	家族・グループ・一般	1月26日 (日帰り)	23	23
18	わっぱるの森をつくろう③		低木の間伐・クラフト	家族・グループ・一般	2月23日 (日帰り)	37	37
19	わっぱるの森をつくろう④		野外料理・植樹	家族・グループ・一般	3月16日 (日帰り)	35	35

※共催事業

NO	事業名	概要	対象	日程	実人数	延人数
20	豊中星空まつり in 能勢	星空観察をメインとした1泊2日の事業。星空観察に加えて、星座の話や天体に関する講演、コンサートやたき火料理、クラフトなども実施。	家族・グループ	11月17日～18日 (1泊2日)	120	240
合計(主催+共催)					1437	2009

3.使用料等（利用料金）の収入の状況

以下のとおり、使用料の徴収を行いました。

平成 30 年度 施設使用料の状況

	使用料
4 月	214,800
5 月	168,200
6 月	280,400
7 月	253,900
8 月	279,400
9 月	259,100
10 月	25,700
11 月	70,500
12 月	52,400
1 月	22,800
2 月	22,600
3 月	230,300
合計	1,880,100

4.管理運営業務に係る 経費の収支状況

平成 30 年度 豊中市立青少年自然の家わっぱる 収支報告書

(1) 収入

(単位:円)

区分	予算額	精算額		差引増減額(精算-予算)
豊中市指定管理料	54,500,000	54,500,000		0
主催事業参加費収入	3,867,000	4,401,689		534,689
補助金収入	800,000	1,766,340		966,340
収益事業	2,100,000	シーツ利用料収入	813,660	-430,402
		その他物販収入	855,938	
合計	61,267,000	62,337,627		1,070,627

(2) 支出

区分	予算額	精算額		差引増減額(精算 -予算)
施設運営人件費	27,000,000	27,174,606		174,606
燃料費	600,000	1,016,520		416,520
光熱水費	2,500,000	2,178,758		-321,242
修繕費	3,000,000	3,195,968		195,968
保険料	50,000	44,100		-5,900
外注検査等委託費	14,500,000	14,778,142		278,142
主催事業運営費(育成費含む)	5,028,000	主催事業運営費	5,099,433	506,270
		育成費	434,837	
運営事務費	3,350,000	3,011,948		-338,052
公課費	1,947,000	3,131,934		1,184,934
予備費	2,070,000	2,271,381		201,381
繰越金	1,222,000	0		-1,222,000
合計	61,267,000	62,337,627		1,070,627

参考資料(アンケート集計)

アンケート集計表(平成 30 年度)

アンケートに回答していただいた団体・グループ数 186

無記名方式 当日の打合せの際に手渡しし、帰る前に記入・お返しいただく。

◆ 施設をどうやって知ったか？(複数選択可)

項目	数値	割合
インターネット検索	58	32.0%
チラシ	1	0.6%
広報とよなか	0	0.0%
知り合いから	18	9.9%
以前から利用していた	101	55.8%
その他	3	1.7%
合計	181	100.0%

◆利用満足度

項目	数値	割合
大変良かった	90	49.5%
良かった	84	46.2%
ふつう	8	4.4%
良くなかった		0.0%
合計	182	100.0%

◆今後の利用について

項目	数値	割合
ぜひ利用したい	112	67.9%
機会があれば利用したい	49	29.7%
イベント・企画があれば利用したい	4	2.4%
利用したくない	0	0.0%
合計	165	100.0%

◆良かった点(複数回答)

項目	数値	割合
施設・設備	58	20.4%
食事	46	16.1%
指導プログラム	29	10.2%
スタッフ対応	135	47.4%
交通	15	5.3%
その他	2	0.7%
合計	285	100.0%

☆ 施設・設備

おふろがよかったです。

キャンプサイトがよい。

自然に恵まれた環境。クラフトも多かったので、次回挑戦したい。

第4炊事場の屋根が広くていい。

子どもたちが楽しむのに十分な広さと設備であったと思う。

☆指導プログラム

ネイチャーツアーは保育士の勉強にもなり、子どもたちも楽しんでいた。

アイスづくり・クラフトなど丁寧に教えてくださりありがとうございました。

スプーンづくり、木から探すところからできたのがよかった。

☆スタッフ対応

丁寧な対応、広いプライベートスペース、ゆっくりなチェックアウト、森の中の感じ。

時間がおしてしまったりしても対応してくださったり、本当にお世話になりました。

アレルギー対応ありがとうございました。

お茶をジャグで出してもらえるのは助かる。

事前のやりとりですぐに対応していただけた。

悪天候にもかかわらず、臨機な対応をしていただきありがとうございました。

☆交通

荷運びがとても便利でした。

◆良くなかった点(複数回答)

項目	数値	割合
施設・設備	25	41.7%
食事	6	10.0%
指導プログラム	0	0.0%
スタッフ対応	1	1.7%
交通	9	15.0%
その他	19	31.7%
合計	60	100.0%

★ スタッフ対応

給湯器が使えるときいていたが、当日ついておらず、
スタッフからのお湯の提供もなかった。
スプーンも貸してほしい。
お風呂がぬるかった。

★ 指導プログラム

夜間の指導プログラムがなくなったのが残念です。
ナイトハイクができなかった(山くずれ)。

★ 施設・設備

車が横付けできない。
トイレがとおかった。
トイレが古く、子どもが使いたがらなかった。
川が使えない、道が通れない。
カーブなので急スピードでやってくる車が怖い。
バーベキュー場が少し遠かった。
テントサイトは道が陰しく、ワゴンをひいて登るのが大変そう。
お風呂がもう少しきれいだと嬉しいです。
山小屋泊をしたが、カーテンとクーラーがほしい。

★ 交通

少し交通の便が悪く、移動手段の手配が大変でした。

★ その他

深夜まで別の部屋の方の盛り上がりで眠れず、結局部屋を移動した。
追跡ハイクのポイントを他の団体に動かされてしまった。

◆その他、感想・要望など

クーラーがもう少し安いと嬉しい
お風呂にシャンプー・コンディショナーがほしい。
節水のため、湯舟にお湯がはられていないのが残念だった。
荷物だけでも車の乗り入れができればありがたい。
洋式トイレを増やしてほしい。

◆食事について

※給食

分量は適当でしたか？（こども）

項目	数値	割合
少ない	0	0.0%
普通	60	98.4%
多い	1	1.6%
合計	61	100.0%

分量は適当でしたか？（大人）

項目	数値	割合
少ない	7	7.1%
普通	86	86.9%
多い	6	6.1%
合計	99	100.0%

味はいかがでしたか？

項目	数値	割合
満足	50	52.6%
普通	44	46.3%
不満	1	1.1%
合計	95	100.0%

※弁当

分量は適当でしたか？（こども）

項目	数値	割合
少ない	0	0.0%
普通	9	69.2%
多い	4	30.8%
合計	13	100.0%

分量は適当でしたか？（大人）

項目	数値	割合
少ない	1	6.7%
普通	12	80.0%
多い	2	13.3%
合計	15	100.0%

味はいかがでしたか？

項目	数値	割合
満足	12	85.7%
普通	2	14.3%
不満	0	0.0%
合計	14	100.0%

※野外炊事

分量は適当でしたか？(こども)

項目	数値	割合
少ない	3	8.3%
普通	29	80.6%
多い	4	11.1%
合計	36	100.0%

分量は適当でしたか？(大人)

項目	数値	割合
少ない	6	11.8%
普通	41	80.4%
多い	4	7.8%
合計	51	100.0%

味はいかがでした
か？

項目	数値	割合
満足	39	81.3%
普通	8	16.7%
不満	1	2.1%
合計	48	100.0%

◆食事についての要望等

合宿用の食事メニューがあれば幸いです。

給食がとてもおいしく、大人も子供もよろこんで食べてます。

能勢牛とってもおいしかった。

メニューの希望をきいてもらえるのはとても嬉しいです。

もう少し子どもが食べやすい味付けのメニューにしてほしい。

ご飯が多かったので少な目にしてもらえればよかったです。

コスト面から考えると満足しています。

お米の量が決められたらうれしい(余るので)

アレルギー食対応ありがとうございました。